



操作マニュアル（簡易版）

※体験版は一部機能制限があります。

■基本操作

○パーツ

・画面上のパーツの選択と移動

画面上にあるパーツをマウス左ボタンクリックするとピンク色の選択状態になります。選択状態になったパーツをマウス左ボタンドラッグするとパーツを移動することができます。

・複数選択

キーボードの Ctrl を押下しながら複数のパーツをクリックしていくと複数のパーツを選択状態にすることができます。

また、Shift を押下しながら 2 つの離れたパーツをマウス左ボタンクリックすると、2 パーツ間の最短経路上にあるパーツが全て選択されます。そのままマウス左ボタンドラッグすることで、複数のパーツを一度に移動することができます。

・回転

パーツを選択した状態でマウスホイールを転がすと選択中のパーツが回転します。通常は 15° 単位ですが、Shift を押下しながら 1° 単位でも回すことができます。

複数選択した状態で回転した場合、レイアウトシートの端にかかることがありますが、パーツはレイアウトシートの端を超えることはできず、内側に移動されます。パーツの接続された形を保ったまま回転したい場合は注意が必要です。

・線路接続

接続ジョイナー同士を近づけると接続する先のジョイナーに角度をあわせて吸着します。接続されるとジョイントマーカが水色（カント付線路同士は黄色）になります。4 番ポイントの分岐側に接続するパーツの組み合わせやカント付線路など、物理的な接続に問題があるパーツの組み合わせの場合はジョイント部に「×」が表示され、警告をします。

・高架橋接続

実製品同様、高架橋や鉄橋、高架駅プレートに橋脚を設置するには S ジョイナーを必要とします。S ジョイナーが必要な箇所は S ジョイナーを所定位置に設置した後に橋脚を設置します。S ジョイナーの接続もジョイナー受けに自動吸着します。

・高架橋勾配チェック

高架橋脚をセットすると数秒ごとに勾配チェックを行い、問題がある場合は橋脚を赤く警告表示します。複線高架線路に単線橋脚を設置するなど、近似した位置に複数の橋脚をセットする場合、警告判定機能が正常に働かない場合があります。

・ストラクチャ接続

「23-122 近郊型橋上駅舎」の階段部分など、独自の接続構造を持つストラクチャは各々独自のジョイントを持ち、同じ種類のジョイント同士は自動吸着します。

・例外特殊接続

「23-230 高架駅舎」「23-231 高架駅店舗」

PlayTrack では都合上【橋脚】として扱われます。実製品は S ジョイナー受けは無く任意の位置に設置可能ですが、PlayTrack では高さ／勾配判定のために仮想の S ジョイナー受けを設けているため設置位置に制限があります。

高さ／勾配判定を必要としない場合は、実製品同様に任意の位置に設置いただいてもかまいませんが、橋脚設置警告が表示されてしまうことと、S ジョイナーへの吸着が行なわれてしまうため、完全に任意の位置に設置することはできない点についてご理解とご容赦をお願いします。

「23-122 近郊型橋上駅舎」「23-123 近郊型橋上駅舎拡張セット」と「23-107 近郊型島式ホーム A」「23-114 近郊型対向式ホーム A」の接続は実際の製品も限定的な接続を想定されているため、仮想ジョイントを設けてあります。

○表示

・拡大縮小

CTRL を押しながらマウスホイールを転がすことで、表示の拡大縮小が行なえます。手前に転がすと拡大、奥へ転がすと縮小します。画面右上の虫眼鏡+-のマークのボタンをマウス左ボタンクリックすることでも段階的に拡大縮小できます。マーク記載の無い虫眼鏡をマウス左ボタンクリックすると最初の状態に戻ります。

・シートの移動

CTRL を押しながらパーツの置かれていないレイアウトシート上をマウス左ボタンドラッグすることでレイアウトシートを移動させられます。

○「なじませつなぎ」

ALT キーを押しながらパーツをマウス左ボタンクリックすると、パーツの色が水色になり、なじませつなぎ選択状態になります。最初に選択を行い色が変わったパーツが「根」になる部分です。この状態で「枝先」としたいパーツをマウス左ボタンクリックすると、「根」パーツから「枝先」パーツの最短距離上にあるパーツが全てなじませつなぎ選択状態を表す水色の表示になります。

この状態でマウスホイールを転がすことで、「根」パーツを根元にした「枝先」パーツの首振りができます。

また、「枝先」のパーツをマウス左ボタンドラッグすると微調整と若干の伸縮をすることができます。接続先のジョイナーに合わせるように微調整し、ジョイナーが水色表示（カント付線路は黄色表示）されたところでマウス左ボタンを離せばなじませつなぎの完了です。

水色以外のパーツや、レイアウトシート上をマウス左ボタンクリックするとなじませモードを終了します。

■右クリックメニュー

選択されたパーツ上でマウス右ドラッグすると表示されるメニューです。

・ 切り取り (CTRL+X)

「切り取り」を選択すると、選択されていたパーツがレイアウトシート上から削除されて記憶されます。

・ コピー (CTRL+C)

「コピー」を選択すると、選択していたパーツが記憶されます。

・ 貼り付け (CTRL+V)

記憶されていたパーツがマウスカーソルに割り付けられます。レイアウトシート上の任意の位置でマウス左ボタンクリックすることで配置されます。

・ 削除 (DEL)

「削除」を選択すると、選択されていたパーツがレイアウトシート上から削除されます。記憶もされません。

・ 奥へ

上に重なったパーツを選択後「奥へ」を選択すると、選択されていたパーツが下になります。

・ レイヤー分割

パーツ選択後「レイヤー分割」を選択すると、新規にレイヤー作成され、選択されていたパーツが新規レイヤーに移動されます。

■ パーツ／レイヤ選択メニュー

画面右端のスクロールバーのさらに右にある縦のバーをマウス左ボタンクリックするとパーツ／レイヤー選択メニューが現れます。

上半分がパーツ選択、下半分がレイヤー選択です。

・ パーツ選択（体験版はパーツの種類が少なくなっています。）

「パーツ種」を選ぶと、そこに含まれるパーツが右の「パーツリスト」に現れます。各パーツ種のパーツリストには関連してよく使われるパーツも含まれています。（「分岐／交差」に含まれる S64 や R481、「橋脚」のメニューに含まれる S ジョイナーなど）

パーツリスト上のパーツをマウス左ボタンクリックして選択することで、マウスカーソルにパーツを持った状態になります。シート上の任意の位置でマウス左ボタンクリックするとパーツが配置されます。

配置の際、近接した接続可能なジョイントがある場合は自動結合処理されます。線路角度が合っていないくとも自動吸着します。

・ レイヤー

編集対象のレイヤーを選択、新規レイヤーの追加、レイヤーの削除、レイヤーの表示順の変更、レイヤーの結合、レイヤーの表示／非表示の切替ができます。

レイヤー削除時、レイヤー上のパーツは全て削除されますのでご注意ください。

【レイヤー利用方法ワンポイント】

線路とストラクチャ、線路とレイアウトパネル、本線と支線、在来線と新幹線といった区分けでレイヤーを分けておくと扱いやすくなります。設置後にもレイヤーを分割できますので、まずは組んでみてから分割するのも良いでしょう。

■「レイアウト」メニュー（画面左上）

マウスカーソルをあわせるとメニューが開きます。

・新規作成

レイアウトシートを新規作成します。

新規作成すると画面下のタブが一つ増えます。タブをクリックすることでレイアウトシートを切り替えることができます。複数のレイアウトシートを同時に編集することができます。最大7枚のシートまで同時に扱うことができます。

・保存パターン読み込み（体験版では使用できません）

サーバー上に保存されているレイアウトシートを PlayTrack に読み込みます。

保存されたレイアウトシートの一覧が表示されます。一覧からレイアウトシートをマウス左クリックで選択します。

【削除】

サーバー上に保存されているレイアウトシートを削除します。削除したら復活はできませんのでご注意ください。

【開く】

選択したレイアウトシートを PlayTrack に読み込みます。読込先の選択メニューが表示されます。

○現シートの現レイヤーに読込

現在編集中的レイアウトシートの現在編集中的レイヤーに読み込むレイアウトシートのパーツデータを統合して読み込みます。読み込むレイアウトシートがレイヤーを分けてあったとしても全て1レイヤーに統合されますので注意が必要です。

○現シートの別レイヤーに読込

現在編集中的レイアウトシートに新規レイヤーを作成してそこに読み込みます。レイヤー最大数8枚を超えて読み込むことはできませんので、現在編集中的レイアウトシートが既にレイヤーを8枚使用している場合は読み込むことができません。

また、読み込む対象のレイアウトシートが複数レイヤーに分かれている場合は注意が必要です。レイヤーを作成できる分だけしか読み込めません。例として現在編集中的レイアウトシートのレイヤーが6枚、今から読み込もうとするレイアウトシートのレイヤーが3枚だったとします。この場合、双方のレイヤー合計数が9枚となり、1枚のレイアウトシートで扱えるレイヤー最大数8枚を超えます。この場合は、後から読み込んだレイアウトシートの3枚目のレイヤーが読み込まれません。

○新シートに読込

現在編集中のレイアウトシートとは別に新規にレイアウトシートを作成して読み込みます。PlayTrack が一度に扱えるレイアウトシートは 7 枚です。既に 7 枚のレイアウトシートを同時に開いて編集している場合は新たにレイアウトシートを作成して読み込むことはできません。

【キャンセル】

保存パターン読み込み操作をキャンセルし、レイアウトシート一覧ウィンドウを閉じます。

・ サンプルパターン読み込み（体験版では一部データ未載）

M セット、V セットなどの様々なサンプルレイアウトシートをテンプレートとして呼び出すことができます。読み込む先の指定は保存レイアウトシートを読み込む場合と同様です。

・ 上書き保存（体験版では使用できません）

現在編集中のレイアウトシートを上書き保存します。

新規レイアウトシートであった場合は新規保存になります。

・ 別名保存（体験版では使用できません）

現在編集中のレイアウトシートを別名で保存します。保存できるレイアウトシートの最大数は 60 枚です。

・ シートを閉じる

現在編集中のレイアウトシートを閉じます。

・ 印刷

編集中のレイアウトシートを印刷します。

選択すると Windows の標準印刷画面が表示されます。

プリンタに設定されている用紙にフィッティングして印刷します。

パーツの選択状態、透明表示状態、レイヤの可視／不可視設定が印刷にそのまま反映されます。

・ 部品リスト

現在編集中のレイアウトシートで使用されているパーツ、パッケージのリストを表示／印刷します。表示内容は3種に切り替えられます。

○使用パーツリスト

編集中のレイアウトに使用されているパーツを表示します。

○使用パッケージリスト

編集中のレイアウトに使用されているパーツをパッケージ単位で表示します。

○不足パッケージリスト

登録済みの所有パーツ数を参照し、編集中のレイアウトにあと何がどれだけ必要かをパッケージ単位で表示します。

・ 終了

現在編集中のレイアウトシートをワーク保存し、レイアウトを終了します。

メッセージに従って Web ブラウザウィンドウを閉じてください。

※ワーク保存されたレイアウトシートは PlayTrack 次回起動時に自動的に読み込まれます。

■「環境設定」メニュー（画面左上）

マウスカーソルをあわせるとメニューが開きます。

○「シート設定」

レイアウトシートサイズ、グリッド、背景の設定画面が開きます。

・シート：

レイアウトシートの縦、横サイズ（500～30000mm）を指定することができます。

・グリッド：

グリッドのサイズ（10～1800mm）、色、濃さを指定することができます。

・背景：（体験版では背景固定）

レイアウトシート背景の表示／非表示を設定します。

背景に使いたい画像をアップロード（「レイアウト」メニュー：背景アップロード）しておき、ここで背景に指定することができます。背景はこういったサイズを想定した画像であるかを指定することができます。部屋の見取り図などを背景にすれば、敷設シミュレーションを行なうことができます。

■ 「パーツ名」 ボタン (画面右上)

パーツ記号表記の On/Off です。押すたびに切り替わります。

■ 「目」 ボタン (画面右上)

パーツを透明化し、下にあるパーツを見ることができるようにする機能です。押すたびに透過／不透過が切り替わります。

■ 「虫眼鏡」 ボタン (画面右上)

拡大率を初期状態に戻します。

■ 「虫眼鏡+」 ボタン (画面右上)

表示を拡大します。押すたびに段階的に拡大します。CTRL を押しながらマウスホイールを手前に転がすことでも拡大します。

■ 「虫眼鏡-」 ボタン (画面右上)

表示を縮小します。押すたびに段階的に縮小します。CTRL を押しながらマウスホイールを奥に転がすことでも縮小します。

■ シートタブ (画面左下)

レイアウトシートが開かれている時、タブが表示されます。タブにはシート名が表示されます。

新規作成されたときは「シート1」などといった名前になります。

読み込み時は保存時に指定したレイアウトシート名が反映されます。

複数のシートを開いている時、画面下にタブが順に並びます。タブをマウス左ボタンスクリックすることでレイアウトシートを切り替えることができます。